



仏陀になること

10年前の仏陀プールニマーの日のことでした。その当時、ババ様は、プラシャーンティニラヤムでもバンガロールでもなく、コダイカナルの静かな避暑地——タミル ナードゥ州のパラニ丘陵の高地にひっそりと隠れた、暗い森に囲まれたのどかな地——におられました。

2003年にババ様がコダイカナルに滞在されたのは珍しいことではなく、神はもちろん、多くの夏をこの木々の緑に覆われた谷間でお過ごしになってきました。ちょうど1986年から、ババ様はよくこの高原の小さな町の住民を喜ばせるため、学生と年長者たちのグループを連れて、滞在なさっていたのです。

しかし、2003年のコダイカナルの体験は、一つ以上の理由から普段とは異なっていました。第一に、それはまったく予想外の旅でした。ほとんどの場合、ババ様は4月にコダイカナルを訪問なさり、5月の第1週目か、まれに第2週目にお戻りになっていたものでした。ところがその年、ババ様は5月の半ばにサイ シュルティ、すなわちコダイカナルのババ様の住居（兼アシュラム）に向けて出発なさったのです。

そして第2に、それはきわめて短期間の旅でした。通常のコダイカナルの訪問は、少なくとも2週間はあったのですが、その時の旅は1週間ほどの滞在だったのです。

けれども、今回の旅が非常にユニークだったのは、その年の仏陀プールニマーの祝祭が、この最も清々しい平和に満ちた場所——片側には、まばゆいばかりに輝く白蓮の花々に覆われた美しい湖が広がり、もう片側には、巨大で背丈の高い、堂々たるシルバーオークの木々が、あたかも偉大な高みに向かう旅路において常に真っすぐ、揺るぎなく前進するかのように生い茂り、第三の方角に目を向けると、紫色や赤紫色、エビ茶色

や黄色など、おそらく人間の感情の色相をすべて網羅している、万華鏡のような美しい色とりどりの花々が目に入る場所で行われたことでした。

つまり、主なる神は、この美しい環境の中で、その年の仏陀プールニマー祭を祝うことを決意なさったのです。そして、ほんのわずかな者だけが目撃する特権を得た、この祝祭の最も素晴らしい部分をお話ししましょう。

その朝、サイ シュルティの中で学生たちにお話しになっていた時、ババ様は仏陀の清らかな性質や、仏陀がどのように悟りを得たか、どのように数多くの立派な徳目の模範となったかについて詳しく語り始められました。そうしてお話しになりながら、同時にババ様は、突然、手のひらを空中で動かし、何もない空間をつかむとすぐに手を閉じられました。そして、次の瞬間、閉じられていた神の手が開かれると、学生たち全員が畏敬の念でハッと息を飲みました！ババ様が手にしていらっしゃったのは、赤くきらきら輝く、見事に物質化されたミニチュアの仏陀だったのです。それからスワミはお尋ねになりました。

「これは、何で作られていますか？」

「スワミ、焼き石膏です」

「スワミ、砂です」

「スワミ、粘土です」



ババ様はすべての答えを退けて、それから明かしてくださいました。

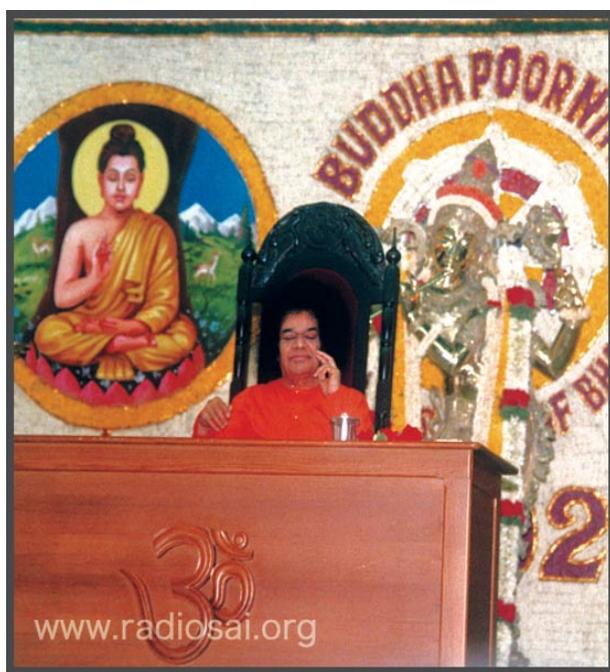
「これは、ルンビニーの土、仏陀が誕生した聖地の土から作られています」

それから、ババ様は仏陀が取り組んださまざまな苦行、この神聖な人物がニルヴァーナ（涅槃）に到る道において追求した厳しい靈性修行についてお話しになりました。そして、ババ様はこの説明のある時点で話を止めて、突然、きっぱりとおっしゃいました。

「誰であれ、仏陀を沈思黙考する者は、モークシャ（解脱）に到ることができます」

そうです、これは一昔前に起こったことであり、ババ様は私たちに一生の間じっくり

考えるべきことを残して下さったのです。では、仏陀とは本当は誰なのでしょう？
そして、モークシャ（解脱）とは何なのでしょう？ ババ様はあるご講話の中で、次のように説明なさっています。



「仏陀というのは、個人の名前ではありません。仏陀とは、靈的に悟りを開いた者、精神的に覚醒した者、至高の真理を実現した者のことです。仏陀とは、思いと言葉と行動の一致を実践する者です。その人のハートは常に慈悲と愛でいっぱいです。その人は人生の浮き沈みに影響されることがありません。釈迦牟尼、すなわち仏陀は、シャカ族のムニ（聖者）でした。」

また 2000 年の仏陀プールニマーのご講話で、ババ様は『解脱』に関するすべての疑問をはっきりと解明して下さいました。ババ様はおっしゃいました。

「人々は解脱に関して奇妙な観念をもっており、解脱には天国に行って永遠に生きることが含まれると想像しています。解脱はそのようなものではありません。解脱とは、無私の愛という、不変で、衰えることのない、完全なるものを獲得することです。人が到達しようと努めるべき状態はこれです。この状態に達して、初めて人は真に解放されます。解脱のためと称して、求道者たちはあらゆる靈的な道を試みています。そうした修行はどれも、せいぜい一時の満足をもたらしてくれるだけです。あなたを本当に解脱へと到らせ、永遠の至福を授けることができるのは、純粋な愛の道のみです。」

仏陀プールニマー祭のたびに、ババ様は私たちがこの祭りに喜んで参加する時、どのようにそれを祝い、何に焦点を合わせるべきかを強調なさいました。2006 年に、ババ様はこうおっしゃいました。

「皆さん全員の中には、まったく同じ愛という神聖原理が存在しています。皆さんが愛の道をたどるならば、皆さん自身が仏陀となることでしょう。」

「今日は仏陀プールニマーです。プールニマーとは満月を意味します。心（マインド）は満月のように完全なる清らかさで輝くべきである——これが、仏陀プールニマーの根底にあるメッセージです。心は自らの源、すなわち純粋で光り輝くアートマと

結合しなくてはなりません。満月の夜に暗闇はありません。仏陀プールニマーというこの吉祥なる日に、私たちは心の完全な清らかさを獲得すべきです。」



ババ様はよく、純粹さ（清らかさ）は靈性修行の真髓である、とおっしゃいます。仏陀の生涯は、彼が悟りを得た後、この清らかな人格によって光り輝きました。もしこの祝祭の日に、私たちが世間の生活に持ち帰るべきものがあるとすれば、それは、どんな厳しい試練にも耐え、どんな誘惑をも退け、私たちの純粹さの度合いをテストするどんな障害物も乗り越えて、永続的で、卓越した完全な平安と幸福を実現するために、仏陀のような粘り強い堅忍不拔の精神で努力奮闘するこの決意なのです。

— ラジオ・サイ・チーム

出典：http://media.radiosai.org/journals/vol_11/01MAY13/becoming_buddha.htm